

一期一会



文化発表会特別号

令和2年11月10日

文化発表会スローガン

激動～おおきな壁を乗り越えて、息吹を刻む～



11月6日に無事に文化発表会を終えることができました。各学年ともに短い取り組み期間で展示・舞台発表ともに仕上げなければなりませんでしたが、すごく記憶に残る文化発表会ができました。

2年生は、役者・音響・照明・道具・アート・調べ学習・映像の7つに分かれて活動しました。少ない取り組み時間の中で自分にあたえられた仕事に、責任感を持ち頑張ってくれました。すごく成長することのできる取り組みになりました。そして2年生の劇だけでなく1年生のスライド劇、3年生の劇を見て、いのちについて感じることがたくさんあったと思います。

また2年学年劇「風の電話～風に乗せた想い～」に役者として舞台に立った人たちは、初めての舞台役者で緊張もするし、恥ずかしくて声もなかなか出ない。セリフを覚えるのも大変。それでも日を重ねるごとにどんどん成長しました。その成長に感動しました。それでも本番開始前、舞台裏では役者の生徒からは緊張感が伝わってきましたが、公演終わりのあいさつでは「みんな、すごく良い顔」をしていました。

人に何かを伝える難しさ、楽しさを経験できたと思います。この文化発表会での経験を普段の日常に活かしていきましょう。



少しだけではありますが、文化発表会の感想です！

役者の練習を頑張って、セリフも頑張って覚えて、はじめての経験がたくさんあってがんばれた。

3年生はみんな演技が素晴らしい。お母さん役の人がすごかった。自分たちも合唱をしたかった。

来年は、今年の文化発表会を超える、文化発表会にしたいです。

3学年ともに命について考えれるもので、命のありがたみや、尊さについて考えることができて良かった。



有志の発表はなかったが、世の中が大変な今、こうして文化発表会ができる本当に良かった。

劇で間違った時も、そのことさえもセリフかのように臨機応変に対応しているのがすごかった。自分は劇に出ていないけど自分も緊張しました。

人に何かを伝えることはすごく難しそうだけど、楽しそうだと思いました。舞台で輝くためには裏方の人が頑張ってくれている。2年全員で作れた劇でした。

来年は役者をやりたい。今回の舞台を見てみんな終わった後に良い顔していた。活き活きしていてかっこよかったです。



1年生は自分たちの1年のころよりすごかった。来年も今年以上に良いものになるようにしたい！



マンガ家の満田拓也さんの漫画作品の中の言葉でこんな言葉があります。

「他人にやらされていた練習を 努力とは言わねえだろ。」

まさに今回の文化発表会の役者を見て、台本を家で覚えてきた姿。次の練習には感情を込めて、役に入り込んでいる姿。もっとうまく伝えたいと、教員に聞きに来る姿。これは人にやらされたのではなく、自らやりたいという姿勢。これを**努力**といい、この**努力**が人を**成長**させ、人を**感動**させることができたのでしょうか。こんな努力を日常の授業に、部活動に活かして日々成長していくといけたらいいですね。